

ブレンディッド学習における自己調整学習の実践支援 —学習計画・DST・受講行動—

Support of Learners' Self-Regulation in Blended Learning -Planning, DST and Learning Activities-

松田 岳士^{*1}, 齋藤 裕^{*2}, 合田 美子^{*3}, 山田 政寛^{*4}, 加藤浩^{*5}, 宮川 裕之^{*6}
Takeshi. MATSUDA^{*1}, Yutaka. SAITO^{*2}, Yoshiko. GODA^{*3}, Masanori. YAMADA^{*4},
Hiroshi. KATO^{*5}, Hiroyuki. MIYAGAWA^{*6}

^{*1} 首都大学東京

^{*2} 元筑波大学

^{*1}Tokyo Metropolitan University

^{*2}Former Fellow of University of Tsukuba

^{*3} 熊本大学

^{*4} 九州大学

^{*3}Kumamoto University

^{*4}Kyushu University

^{*5} 放送大学

^{*6} 青山学院大学

^{*5}The Open University of Japan

^{*6}Aoyama Gakuin University

Email: mat@tmu.ac.jp

あらまし：本研究は、学習支援者の支援がなくても期限を守ってeラーニングを受講できる学習者の特性を把握するために、二つの相違点から学生のeラーニング受講状況を検討した。第一に学習計画習慣の有無であり、第二に先輩受講者によるデジタルストーリーテリング（DST）コンテンツ視聴の有無である。本研究の対象となったeラーニングは受講期間が短期であったが、学習計画習慣の有無による違いがある程度みとめられ、DSTコンテンツも一時的には早期受講を促進していると推測できた。

キーワード：学習計画習慣、デジタルストーリーテリング、自己調整学習、ブレンディッドラーニング

1. はじめに

本研究では、対面授業と非同期分散型eラーニングを組み合わせたブレンド型授業における自己調整学習の支援方法を探るため、学習計画を立てる習慣に注目し、eラーニング受講の有無、DSTコンテンツの活用状況等を比較する。特に、前年度修了者によるデジタルストーリーテリング（DST）コンテンツについては、昨年度本学会全国大会でピアサポートとしての効果を検討したのに続き⁽¹⁾、その際の議論を受けて、そもそもどのような学習者がDSTコンテンツにアクセスしたのかを分析する。

著者らの関心は、学習支援者によるeラーニングの受講支援から自律的に学べる学習者の育成に移ってきており⁽²⁾⁽³⁾、本研究は、学習支援者の支援がなくても期限内にコンテンツを受講できる学習者の特性を把握する足がかりを得る目的を持っている。

2. 対象と方法

2.1 授業・受講者

対象となるのは、2012年度から2014年度（それぞれ後期）に地方国立大A大学において開講された気象学の基礎を学ぶ教養科目であり、同一の教員が担当して同一内容の2コマが同時開講された。全15回の授業のうち、第6回までは主に座学で、eラーニングは授業の後半に予定された実習の予習教材として合計4本提供された。実習において、学生は実際の気象データを用いてグループで天候の予測に取り組んだ。eラーニングの内容は、実習で用いる天気

表1 対象となった授業

年度	分析対象者 (受講者)	eラーニング		DST コン テンツ
		予習用	授業代替	
2012	394 (433)	4本		
2013	169 (181)	4本		4本
2014	109 (124)	4本	10回分	

図やデータの読み方が中心であり、実習1回あたり1本（15～20分程度）が課せられた。第3回を除く受講期間は1週間、第3回の受講期間は約2週間で、受講期限の後もアクセスできる。

分析対象となる学生は、表1のとおりであり、受講申込者のうちアンケート未回答者およびLMSに一度もログインしなかった学生は除いた。また、2014年はすべての対面講義（10回分；30本）をeラーニング化し、欠席した場合の代替受講を認めた。

2.2 開始時アンケート

開講時に受講学生に対して実施したアンケート調査では、他者の助言を受けたい度合い（ヘルプシート・8項目）、自己調整方略（33項目）、集中できる時間帯（2時間刻み）などと並んで、二件法で「学習計画を立ててから、学習をはじめますか」という項目を設定している。後述するように、これは学習計画を立てる習慣があるかを訊ねるものである。

2.3 DST コンテンツ

2013年度に提供されたDSTコンテンツには、前年度同一の授業を受講し、全てのeラーニングを期限内に視聴して、単位を取得した学生4名（3学部、

女性3名、男性1名)が出演した。一本2~3分で、「締め切りを守って受講できた理由」や「受講時に心がけたこと」などのテーマで前年度の受講を振り返ってもらった。

コンテンツは初回 eラーニングの締め切り後に「先輩の声 (eラーニング受講のポイント)」と題して eラーニングと同じ LMS から公開した。DST コンテンツ活用への呼びかけは、公開直前の対面授業と受講学生全員が使用している SNS における教員の日記内で行い、受講を強制せず、時期も含めて学生の自由とした。

2.4 リサーチクエスト

本研究では、二つの相違点から学生の eラーニング受講状況を検討する。第一に学習計画習慣の有無である。受講期間が1ヶ月であった eラーニングの科目では、学習計画を立てる習慣があるかどうかを駆け込み受講など受講パターンに影響を与えることが示唆されているが⁽⁴⁾、受講期間が1週間程度と短く、ブレンディッドラーニングの科目であっても同様の傾向が見られるかどうかを確認する。

第二に DST コンテンツ視聴の有無である。昨年度の発表においてもこの観点からいくつかの値を分析しており⁽¹⁾、ここでは、DST コンテンツを提供しなかった年との違いについても検討する。

3. 結果

3.1 学習計画習慣の有無

学習計画習慣の有無から、全 eラーニングコンテンツを受講した学生数・割合、eラーニングコンテンツの平均受講順位を算出すると、表2のような結果になった。ここからはいくつかの特徴が読み取れる。第一に、2012年度と2014年度には類似した傾向がみられることである。具体的には、どちらの年も、すべての eラーニングを受講した学生の割合は、学習計画習慣有群の方が高い。また、初回と最終回の eラーニング受講平均順位が逆転し、最終回では学習計画習慣あり群が早めに受講しているのも両年に共通している。

一方、2013年度は全く異なる傾向を示しており、全コンテンツを受講した学生の割合が高いのは学習計画習慣無し群であり、さらに平均順位は初回も最終回も有り群が早くなっている。

3.2 DST コンテンツ視聴の有無

2013年度 DST コンテンツを1本でも視聴した学生は41名(分析対象者数比24.3%)であり、そのうち29名が4本とも視聴していた。視聴時期を視聴本数ベースでみると、第2回 eラーニングの前が最も多く、全視聴本数の52.2%を占める71本であり、以下第2回と第3回の間41本、第3回と第4回の間17本、第4回以降の7本となった。

このような視聴状況と表3に示した eラーニング受講順位の推移を比較すると、特に第2・3回の順位差が大きくなっており、DST 視聴効果が示唆される。

表2 学習活動の特徴

	年度 (N)	全 eL 受講	平均 順位*	2013 計 画習慣	DST 視聴**
有	12 (230)	113 (49%)	176, 154	有 N=87	24 名 (28%)
	13 (87)	50 (57%)	66, 73		
	14 (55)	30 (55%)	28, 24		
無	12 (154)	65 (42%)	175, 163	無 N=70	15 名 (21%)
	13 (70)	41 (59%)	68, 74		
	14 (51)	27 (53%)	26, 29		

*第1回、第4回の順位、**2名は該当項目未回答

表3 eラーニング受講順位平均値 (2013年度)

DST 視聴 (N)	eラーニング受講				
	全部視 聴(%)	平均順位			
		1回	2回	3回	4回
有 (41)	20 (70.7)	62.66	58.26	65.00	69.95
無 (128)	66 (51.6)	68.48	74.20	78.59	75.54
差分	—	5.83	15.94	13.59	4.59

4. 考察と課題

本研究の対象となった eラーニングは、受講期間が短期であったが、学習計画習慣の有無による違いがある程度みとめられ、DST コンテンツも一時的には早期受講を促進していると推測できた。

一方で、2013年の学習計画習慣有り群では、DST コンテンツ視聴群の平均順位が73→64→73→67と推移し、学習計画習慣無し群で、DST コンテンツを視聴群の平均順位が45→48→56→65と推移していたことから、DST コンテンツの影響が、どのように作用しているのかを探り、学習支援としての DST コンテンツの設計や提供方法をさらに研究したい。

また今回は未検討であった、自己調整方略に関する項目と学習活動に関するデータとの関係も検討し、自律的に学ぶ学習者像を明らかにしたい

謝辞

本研究は科研費(基盤研究(B)課題番号15H02935)の助成を受けている。

参考文献

- (1) 松田岳士, 齋藤裕, 合田美子, 山田政寛, 加藤浩, 宮川裕之: “eラーニングにおけるピアサポートの試み—DST コンテンツ提示の可能性—”, 教育システム情報学会第39回全国大会講演論文集, pp.95-96 (2014)
- (2) Goda, Y., Yamada, M., Saito, Y., Kato, H., Matsuda, T., and Miyagawa, H.: “Effects of Help-seeking Target Types on Completion Rate and Satisfaction in e-Learning”, International Technology, Education, and Development Conference 2013 Proceedings, pp.1399-1403 (2013)
- (3) Goda, Y., Yamada, M., Matsuda, T., Saito, Y., Kato, H. and Miyagawa, H.: “Procrastination and Other Learning Behavioral Types in e-Learning and Their Relationship with Learning Outcomes”, Journal of Learning and Individual Differences, Vol. 37, pp.72-80 (2014)
- (4) 松田岳士, 山田政寛: “学習計画習慣の有無による eラーニングにおける学習行動の相違について”, 日本教育工学会論文誌, 第33巻, 増刊号, pp.113-116 (2009)